全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：健康・スポーツ科学
部会長名：前田　正登
作成者名：前田　正登

概要（2 ページ）

（1）組織・運営について

平成 29 年度の健康・スポーツ科学教育部会は，人間発達環境学研究科 17 名，海事科学研究科 2 名，保健学研究科 17 名および科学技術イノベーション研究科 1 名で合計 37 名の構成であった。昨年度に健康・スポーツ科学講義を担当する教員が退職したこともあり，前年度より 1 名少ない 37 名で構成された。本年度は，部会長のほか幹事 2 名と技術補佐員 1 名の体制で運営にあたった。

（2）実施状況について

健康・スポーツ科学教育部会としては，前期に「健康・スポーツ科学実習基礎１」及び「健康・スポーツ科学実習基礎２」，後期に「健康・スポーツ科学実習１」及び「健康・スポーツ科学実習２」の４つの実習科目，及び「健康・スポーツ科学講義Ａ」，「健康・スポーツ科学講義Ｂ」，「健康・スポーツ科学講義Ｃ」の３つの講義科目の合計７科目を開設している。健康･スポーツ科学は，身体と健康･運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学であり，開設されている７科目の実習及び講義を通して，身体運動と人体の機能･能力との関わりについての知識，安全で効果的かつ効率のよい身体運動について，及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を習得することを目標にしている。

健康・スポーツ科学実習基礎１及び同実習基礎２は，全学共通授業科目として，学部ごとに月曜から木曜日まで 12 の曜限枠を設定（一部複数学部で構成）し，1 枠あたり 3～6 クラス（コース）として，本年度は計 58 コースを前期第 1 クォーター及び第 2 クォーターに開講した。一方，健康・スポーツ科学実習１及び同実習２は，実習基礎１及び実習基礎２と同様に，後期月曜から木曜日まで 9 の曜限枠を設定し，本年度は計 27 コースを開講した。これらの実習科目では，教育効果，安全性の確保，教場の条件などから，最大限 1 クラス 40 名を目安に設定しており，前後期の 85 コースのうち，専任教員が 38 コース，非常勤講師が 47 コースを担当した。健康･スポーツ科学実習の理念・シラバス・評価等について，すべての担当教員が共通の観点を持つために，健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）を作成し，各教員の専門性を活かしながら効果的な実習授業を展開している。また，第１回目（初回）の授業ガイダンスで，ガイダンス資料をもとに，健康・スポーツ科学の学修目標，及び当該科目の目標，成績評価の方法などを受講学生に周知するとともに，本年度からは履修登録の手続きもガイダンスの中で行った。

健康・スポーツ科学講義は，昨年度より「健康・スポーツ科学講義Ａ」，「健康・スポーツ科学講義Ｂ」及び「健康・スポーツ科学講義Ｃ」（いずれも全 8 週の授業で 1 単位）の 3 つを 1 つの時限枠で並立開設しており，本年度は前期第 2 クォーターで 1 枠，後期第 3 クォーターで 2 枠として提供，それぞれの時限枠で学生がいずれかの科目を選択して履修希望を申請し 3 科目の履修学生数が均等になるように調整して履修登録をさせることにしている。

健康・スポーツ科学講義の担当教員はすべて専任教員であり，「健康・スポーツ科学講義Ａ」では，生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識や実践能力について，「健康・スポーツ科学講義Ｂ」では，健康で心豊かな生活を送るためにはどうすれば良いかといった自分でできる健康管理について，「健康・スポーツ科学講義Ｃ」では，スポーツ活動や日常の身体運動に関してスポーツ科学の中の生理学，心理学，及び社会学

の各側面から，それぞれ講義を行っている。

◎運営にあたって今年度工夫した点

1) FD 研修会の実施

3 月 8 日（木）に，平成 29 年度神戸大学全学共通教育健康・スポーツ科学実習 FD 研修会兼オリエンテーションを開催した。出席者は藤田機構長，及び，専任教員 5 名，非常勤教員 7 名の計 12 名であった。はじめに，藤田機構長より「神戸大学の教育改革について」の講演があった。

本年度は FD 推進講演会として，立命館大学スポーツ健康科学部上田憲嗣先生より「コオーディネーション運動の大学体育への導入について」の講演を，一部実技も交えながらお話いただいた。ご講演では，コオーディネーショントレーニングを支える動作コオーディネーション理論の歴史的経緯から，その具体的方法を概括されており，大学体育においても実施可能な平易な実技も体験することができ，コオーディネーション運動に関しての理解が深まった。参加者はこれらの体験を通して，コオーディネーション運動が健康・スポーツ科学実習の授業にも取り入れることが可能であることもわかり，授業改善のための極めて有意義な講演会となった。

なお，FD 講演会の後，次年度に向けてのオリエンテーションを，配付した「平成 30 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用)」に沿って行った。

2) 体力テストの継続的実施

本年度も引き続き，実習基礎 1 及び実習基礎 2 の一環で，法学部及び経営学部，医学部医学科の一部を除く学生（男子 1,177 名，女子 761 名，合計 1,938 名）を対象に体力テストを実施した。1 年次生を中心に，18~19 歳の大学生における現在の体力を掌握できたことは，実習授業を行っていく上で貴重な資料となるだけでなく，学生自身にも自分の身体や体力を知ることにもなり有益であった。

なお，体力テストはこの 6 年間継続して実施しており，過去 6 年間の体力推移はデータとして蓄積している。これらの推移には，女子で上体起こしとハンドボール投げにやや低下傾向がみられること，あるいは，男子でわずかではあるが 50m 走に向上の兆しがみられること等の特徴がみられており，これらの点を含め今後も学生の体力について注視していく必要があろう。

（3）総括と今後の課題

本年度は，昨年度に挙げられていた運営面での課題のいくつかをクリアすることができ本教育部会を比較的円滑に運営することができた。

毎年，FD 講演会を開催し，また，ピアレビューも行うなど，各教員が担当する授業についての改善を促すように部会としても取り組んでおり，学生の振り返りアンケートの総合評価では実習のほとんどのコースで 4.0 点を超え，全学共通科目にふさわしい内容の授業内容を提供できていると考えられる。さらに，継続して測定している体力テストのデータを元に，「神戸大学生の健康・体力について考える」取り組みも進められており，授業の範囲を超えて，快適な学生生活を支える重要な役割を担うことも期待されつつある。

ただ一方で，依然として，「非常勤講師の削減」と「体育施設の老朽化」の 2 つの課題が未解決のままとなっている。これらはいずれも経費に直結する問題であり，近年，予算が縮小されていることから解決し難い課題となっている。現状では学生の評価も上々であり教育の質の低下も認められてはいないが，2 つの課題はこれら評価に影響する可能性がある課題であり，今後できる限り早急に対応すべき重要な課題であると考えられる。

項目・観点ごとの記述

基準５　教育内容及び方法

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上） 実習においては,学生の選好に応じてスポーツ種目が選べるようになっており,また,昨今の子どもの体力の２極化問題を考慮して，学生自らが積極的に健康・体力の維持増進に取り組めるよう授業の中で体力テストを実施している。講義においても，学生生活として身近な問題となる「ライフスタイルと健康」や「食と健康」,「睡眠と健康」「ストレスと健康」,「環境と健康」,「エイズ予防」を講義のテーマに取り上げ，これらの分野に関する啓蒙を実施してきている。
根拠資料 ● 平成 29 年度 シラバス ● 健康・スポーツ科学 実習ノート ● 基礎としての健康科学 / 神戸大学大学院人間発達環境学研究科　健康科学研究会編 ： 大修館書店，2007，ISBN:978-4-469-26630-6

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上） 健康・スポーツ科学実習基礎においては，歩数計や運動時の心拍数を計測することにより，運動時エネルギー消費や運動の生理的負担等を実測させている。また，各スポーツ種目を教材とした実習では，グループに分けての指導を実施し，その場合はＴＡを活用して指導が充実するよう配慮している。さらに，実習・講義ともビデオ・ＤＶＤ等を活用して，学生の理解が深まるよう工夫している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上） 実習の授業では授業開始時に出席を厳格にとり,遅刻や早退についても教育部会独自の基準で学生に対応し，厳正な評価を行っている。また,「評価の対象」や「評価の基準」を初回ガイダンス時に学生に説明し周知している。
根拠資料 ● 平成 29 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用） ● 履修カード

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 　健康・スポーツ科学実習基礎１及び実習基礎２，及び，健康・スポーツ科学講義は，授業内容の共通化を図るため，シラバスを共通としている。なお，実習基礎のシラバスは，学修目標はもちろん内容も共通化を図るとともに，実態に即して各スポーツ種目に応じた内容も盛り込めるように一部はコースごとに可変としている。
根拠資料 ● 平成 29 年度シラバス ● 平成 29 年度健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） 　実習授業では，授業運営が困難になるほど学生の基礎学力不足を感じる場面はほとんどなく，むしろ，体力面で受講している学生の平均レベルよりも著しく劣る学生がいることがある。健康・スポーツ科学実習基礎１及び実習基礎２では，そのような学生でもできる身体運動を「実習ノート」により紹介し指導している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 　健康・スポーツ科学実習の成績評価は，課題達成度，受講態度，出席状況（70％以上の出席）の３点を総合的に評価することにより行っている。受講学生には，毎期の初回授業で行われるガイダンスで，これらの評価観点を説明し周知している。また，同講義においてもシラバス記載の基準をガイダンスで説明し，その上で授業を進めている。
根拠資料 ● 平成 29 年度 健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用） ● 履修カード（学生の写真付）

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100 字以上） 　健康・スポーツ科学実習では，成績評価について①評価基準，②評価の対象，及び③評価の観点として，それぞれガイドラインを設けており，年度ごとに前年度末ごろに実施される次年度の健康・スポーツ科学実習オリエンテーションにて授業担当者で確認，共有している。
根拠資料 ● 平成 29 年度 健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用）

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・

技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②:　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100 字以上） 健康・スポーツ科学実習に対する学生の授業評価は良好で，総合評価が４点以上であるコースが大半を占める。一方，健康・スポーツ科学講義のそれはやや低く，さらなる工夫が必要であると考えられる。昨年度も同様の課題であったが，学生からの評価をどのようにして各教員の授業に反映させていくか，その仕組みの再検討が必要である。
根拠資料 ● 平成 29 年度 学生の振り返りアンケート ● 平成 29 年度 各教員の自己点検・評価

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） キャンパス内で自主的に運動が行える施設は整えていないが，実習授業時には，家庭でもできる内容の運動を教材に取り上げることで，課外活動時や自宅でも実践できるように指導している。
根拠資料 ● 健康・スポーツ科学 実習ノート

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習や課外活動等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 前期の健康・スポーツ科学実習基礎の初回ガイダンス時に，健康・スポーツ科学として開設している実習４科目及び講義３科目について，必修・選択の別，卒業要件に算入できるか否かなどを説明している。また，実習授業では曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっているが，これも初回ガイダンス時に授業内容を説明の上，選択できるようにしている。
根拠資料 ● 平成 29 年度 健康・スポーツ科学実習ガイダンス資料（教員用） ● 平成 29 年度 シラバス

７－２－②:　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上）
実習授業では曜限ごとにコース（スポーツ種目）が選択できるようになっているが，提供するスポーツ種目は年度ごとに検討することとしており，前年度の学生の履修状況を勘案しながら時間割を作成する際に反映するようにしている。また，実習授業では身体運動を伴うことから，身体運動を行う際に支援が必要となる学生が履修していた場合は，当該授業にＴＡを優先的に配置するようにしている。
根拠資料 ● 平成 28 年度履修学生数一覧 ● 平成 29 年度履修学生数一覧 ● 平成 29 年度健康・スポーツ科学実習時間割